

Bibliophiles

ビブリアファイルズ No.11(2017年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

(ここで紹介するのは新しい本の一部です。)



『資格取り方選び方 全ガイド 2019』 高橋書店編集部

資格と言えば、医師・弁護士・公認会計士といったオーソドックスなものを思い浮かべる人もいるでしょう。しかし例えば情報技術の浸透により、「IC3 (アイシースリー)」などのコンピュータ関連の資格なども増えています。本書は、1000にも及ぶ資格を紹介し、受験資格・試験日・試験内容といった基本情報をまとめています。また重要な資格については、資格取得支援予備校の講師が「資格のQ&A」を書いており、その資格を取るメリットやおすすめの勉強法などを紹介しています。

『ハプスブルク帝国』 岩崎周一

フランス革命で断頭台の露と消えたマリ・アントワネットは名門・ハプスブルク家の出身でした。千年の歴史を持ち、ヨーロッパの多くの国を治めたこのハプスブルクに対する関心は日本でも強く、本図書館も「ハプスブルク」がタイトルに付いている本は8冊ありましたが、このたび本格的なハプスブルクの通史の力作が刊行されましたので購入しました。世界史の学習などに役立ててください。

『宇宙に「終わり」はあるのか』 吉田伸夫

「われわれの住むこの宇宙は、ほんの138億年前に始まったばかりである。」この本はこの一文で始まりますが、作者によれば「ほんの138億年前」は大げさではなく、「宇宙の終わり」は10の百乗年あと (!) に訪れるのだそうです。気の遠くなるような話ですが、宇宙の開始=「ビッグ・バン」に対して、この宇宙の終わりは「ビッグ・ウインパー (すすり泣き)」と呼ばれ、本書で詳しく説明されています。どんな終わり方なのか、興味を惹かれませんか？

『LGBT なんでも聞いてみよう』 QWRC & 徳永桂子

今でも日本には、性的少数者 (LGBT) の人が生きるにはさまざまな障害があります。例えば2003年に法改正され、自分の性別を変更できるようになりました。しかしその人がすでに結婚している場合、離婚しなくてはなりません。日本ではまだ「同性婚」が認められていないからですね。「性別変更か離婚か」という究極の選択、どう思いますか？

『生きていくあなたへ 105歳 どうしても遺したかった言葉』 日野原重明

この7月に105歳の生涯を閉じた医師・日野原重明氏の最後の著作です。「人間ドック」を普及させるきっかけを作ったりなど、医学界に多大の貢献をしてきた作者ですが、本書は「友達が少ない」とか「人目ばかりが気になる」といった悩みや質問に答えるかたちで、作者の人生を振り返るようなエッセイ集となっています。

新海誠『言の葉の庭』の、DVDと小説版の文庫本が入りました！

『君の名は。』の大ヒットの記憶も新しい新海誠の作品です。DVDの方は、2013年に発表されたアニメーションで、小説版の方は映画公開後、雑誌「ダ・ヴィンチ」に映画版をリメイクして連載されたものです。万葉集のある歌をめぐって男女の恋模様を描いていますが、作者によれば、この作品が描くのは西洋風の「恋愛」ではなく日本古来からある「恋」なのだそうです。後者は「孤悲(こひ)」とも書き、「愛に至る以前の、孤独に誰かを希求するしかない感情」だと新海氏は言います。独特の日本人的感觉で恋の切なさを描いた作品、試してみたいはいかがでしょうか。

『続 ざんねないきもの事典』 今泉忠明

35万部を超えるベストセラーだった前作に引き続いての第2弾です。「ウマは全力で走ると死ぬ」「ティラノサウルスは肉の食べ過ぎで痛風に苦しんでいた」など、動物に関する驚きの豆知識を楽しんで下さい。なお、第1章の「進化」についての説明は大変分かりやすいのでオススメです。



『難しいことはわかりませんが、英語が話せる方法を教えてください!』 スティーブ ソレイシィ

ニューヨーク出身でNHKの英会話番組でもおなじみの筆者。彼は、日本の英語教育、また大人になってもTOEICの受験を強いる日本の風潮は間違っていて、そうしたやり方では英語は話せないと言います。英単語や英文法を「大工道具」に例えれば、「使いやすい道具」で家を作れば良いだけ、なのだそうです。ご一読を。

今号のひとこと

日本を今一度洗濯いたし申候

坂本龍馬 (1836-1867)

今年没後150年を迎えた坂本龍馬は、日本史の人物では最も人気のある一人です。その証拠に日本全国に龍馬の像は数多くあり、ある人の調査によると、小学校によくある「二宮金次郎」像は別格1位として、彼に次ぐ2位の多さなのだそうです。

そんな龍馬の遺した名言で、恐らく最も有名なのがこの言葉でしょう。これは龍馬の姉への手紙の一節で、前後の文脈は「悪い役人たちをやっつけて、日本を再び洗濯してきれいにしてさし上げたい」という主旨の内容です。いかにも血気盛んで、新しい日本国を作りあげようという、幕末の武士の意気が伝わってくる言葉ですね。